

2023.10  
(公社)富山県薬剤師会  
広報誌

# とみや 富薬

10号

第45巻

No.411



ウラジログシ *Quercus salicina* Blume (ブナ科 *Fagaceae*)

**生薬** ウラジログシ 随時、葉を採り刻んでから速やかに陽乾する。

**成分** フラボン: quercetin, kaempferol, isoquercitrin、タンニン様物質: gallic acid, ellagic acid, catechol, pyrogallol、トリテルペン: friedelin, epi-friedelanol, friedelanol, taraxerol, friedelanol 等。

**効能** 結石発育抑制作用および溶解作用があり、抗炎症作用、利尿作用とともに腎結石・尿管結石に対する排出促進効果がある。



生薬 ウラジログシ

元富山県薬事研究所  
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

## 〇〇表紙について〇〇



ブナ科コナラ属の植物は北半球に約300種以上あると言われています。日本には14種が生育し、その内常緑樹はコナラ亜属でウバメガシ節のウバメガシ(*Q.phillyraeoides*)とアカガシ亜属のアカガシ(*Q.acuta*)、ツクバネガシ(*Q.sessilifolia*)、アラカシ(*Q.glauca*)、シラカシ(*Q.myrsinaefolia*)、ウラジログシなどの数種が宮城県南部から南の暖温帯に生育しています。これらの内、アカガシ、ツクバネガシ、ウラジログシの3種は新潟・富山県以西の日本海側の積雪地帯にも自生し、富山県の黒部川右岸のウラジログシは「愛本ウラジログシ等稀少個体群保護林」として県自然環境保全地域に指定されています。積雪の重みで枝などが折られることから豪雪地での常緑広葉樹の群生は珍しいことですが、材質が強く、粘りがあることから折れにくく、群落をつくるまでになったのではと推測します。カシの名は材質が堅いことから「かたし」と呼ばれ、「た」が略されて「カシ」になったともいわれています。『和訓栞』(1709-1776)にも「堅の義也、堅木なれば名とせり」と言っています。材は堅さを生かして農具や木型、三味線棹、船の舵や艫、建築材、木刀、薪炭材に使われます。また属学名*Quercus*はケルト語のquer(美しい)とcuez(樹木)の合成語で、その樹形から園芸樹として庭園や高垣に用いられています。

宮城県南部、新潟県以西、四国、九州、済州島、琉球、台湾に自生する常緑高木で、幹は直立し、樹高20m、直径1mに達し、よく分枝します。樹皮は灰黒色、白色円形の皮目を散生し、若枝ははじめ褐毛を密布し、次年には灰白色、円形の皮目を散生します。葉は互生、有柄で葉身は長楕円状披針形または披針形、鋭尖頭、基部は広いくさび型、ふちは鋭鋸歯があります。表面は無毛、光沢があり、中肋は凹みます。裏面ははじめ黄褐色の絹毛を密生し、のち絹毛を散生し、蠟質を分泌し雪白色となることからウラジロの名が付けられました。葉身は革質、長さ7-11cm、葉柄は1-2cm。5月に新枝の基部から数個の尾状花序を下垂し、雄花をつけます。雌花序は新枝の上部の葉腋にでて、3-4個の雌花をつけます。堅果は2年目に熟し、広楕円形または卵状広楕円形、総苞は半球形、7個の横輪があります。

ウラジログシは最近になるまで薬として使われることはありませんでしたが、徳島県で民間薬として使われていたようです。20世紀初め頃徳島地方で「シラカシ」もしくは「ウウラジログシ」と称したものが胆石、腎石、尿路結石などに良いとして用いられたことから研究が進み、『生薬学雑誌』20巻(1966)にラットを用いた実験でカテコールタンニンに結石形成抑制作用があることが分かるなど有効性が証明され、今では臨床試験でも有効性が認められ、医療用としても用いられています。

ブナの仲間を薬として使うことは稀で、中国においても『本草拾遺』(739)に「櫛子」として「櫛子は江南に生ずる。皮樹は栗のようで冬季にも凋むず。子は椶子(クヌギ*Q.acutissima*)より小さい」と常緑性に触れ、薬用として「皮葉、煮汁を飲めば産婦の血を止める」と使用法を記しています。李時珍(1518-1593)は「櫛子は所々の山谷にある。その木は、大なるは数抱えにして高さ二、三丈」と高木であることを言い、「葉は冬を凌いで凋まない。……実は大いさは菩提子(ムクロジ*Sapindus mukorossi*)ほどで内の仁は杏仁ほどだ。生で食うと苦澁だが、煮、炒すりば甘を帯びる」と常緑でどんぐり様の果実は食用になること、郭璞(266-324)の注に「櫛は子が柞子(コナラ*Q.serrata*)に似て食えるものだ。冬期に採る。木は屋柱、棺材にすると容易に腐朽せぬものだ」ともあり、専ら食用にすることが記されています。ウラジログシが台湾にしか生育していないため、現在では中国南部にも生育するアラカシまたはシラカシを「櫛子」に充てています。(村上守一 記)